

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度第1回高松市議員報酬、市長及び副市長の給料等審議会
開 催 日 時	令和5年11月20日（月） 午後1時30分～3時
開 催 場 所	市役所 4階会議室
議 題	(1) 諮問：高松市議会の議員報酬の額、市長及び副市長の給料の額並びに 議会における政務活動費の額について (2) その他
公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
非公開の理由	—
出席委員	6人 桑城秀樹、高塚順子、北岡保之、長町亘洋、奈良茂子、中澤悦子
傍 聴 者	2人
担 当 課 び 先 及 連 絡	総務課 (Tel 839-2181)

【経過及び結果】

1 会議の公開の決定

会長から本審議会の会議を公開とする旨の発言があり、今後、会議を非公開とすべき審議事項が生じた場合には、その都度、本審議会において公開・非公開を決定することとした。

2 審議会資料の説明

市長からの諮問の後、事務局から本市の議員報酬、市長及び副市長の給料、政務活動費の額の状況、本市の財政状況、人事院・香川県人事委員会の勧告内容、他市の状況等について説明し、それらに対し各委員から質問及び意見等が出された。

【主な質疑応答】

委員) 令和4年度と比較して、令和5年度に高松市の人口が減少している理由、世帯数が増加している理由及び職員数が増加している理由を教えてください。

事務局) 人口については、全国的にどの自治体も減少しており、高松市も平成27年頃の国勢調査までは横ばいであったが、それ以降は緩やかに減少に転じているかと思う。社会減というよりは、自然減が要因になっていると思われる。また、世帯数の増加は、単身世帯の増加によるものと思われる。

事務局) 職員数の増加については、ほぼ横ばいで推移しているが、多様化する市民ニーズへの対応や、コロナ禍における社会情勢ということもあり、新たな業務が発生したことにより、若干、増加したものである。

委員) 先ほど質問にあったように、人口は減少したが、歳入の市税は増となっている。その理由はなぜか。固定資産税が増加したのか。

事務局) 令和4年度でいうと、個人市民税の現年分は対前年比で0.7%増加している。市税収入自体は個人市民税、固定資産税の増などにより、前年度比1.7%、金額にして、約11億円増加している。固定資産税については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、軽減措置があったが、それがなくなったことより増加している。

委員) 元に戻ったということか。

事務局) そのとおりである。

委員) 令和3年度と比較して、人件費が増えた原因は何か。

事務局) 職員数の増加と人事院勧告に基づく給与改定により、ベースアップされたことが要因である。

委員) 職員数はどの自治体も増えているのか。

事務局) 一時期は右肩下がりだったかもしれないが、高松市のここ数年の傾向は、ほぼ横ばいか微増である。

委員) 議員の活動状況について、議会の開催日数があるが、議員の出席率は分かるのか。報酬を考えるに当たり、第一に職務の責任を果たしているのかを考える必要があると思う。出席率か何かそれに代わるもの、議員の活動状況がもっと分かるものはないか。

事務局) 次回の会議で提示させてもらう。

委員) 政務活動費に関して、平成28年度以降の交付分以降の政務活動費収支報告書をホームページで公表しているとあるが、何年分を公表するという決まりがあるのか。平成28年度分以降の全てがホームページに残っているのか、1年ずつ削除しているのか。

事務局) 正確には議会に確認するが、平成29年3月の使途基準運用指針の見直しで、平成28年度分から公表するという流れになったと思う。現在は平成30年度以降のものをホームページで確認することができる。資料中の「平成28年度以降の収支報告書及び添付書類の全てをホームページで公開している」という部分は誤っており、正しくは「30年度以降」である。なお、平成30年度より前に関しては、情報公開請求により、閲覧できるようになっている。

委員) 平成30年度の使途基準運用指針の改正で平成30年度以降分をホームページで公表しようということになったのか。

事務局) 具体的にいつの時点で改正になったかは、確認して、次回、回答する。

委員) 4月に統一地方選があり、高松市議会も定数40人の半数近くが新人議員となり、女性議員も県議会ほどではないが増えた。そういった意味では、国が平成22年に出している「地方自治法抜本改正に向けての基本的な考え方」の中で言われている、議会は「住民の縮図」でないといけない、という点で、女性議員が増えたことは良い傾向だと思う。一方で、新しく、比較的若い、議員としては、まだまだ未熟だなという人も出てくる。そのような議員に対し、議員の資質を見ていく必要があると思う。事務局に何かを調査してほしいという意味ではなく、我々が広い視野で議員の活動状況を見ていく必要があると考えている。また、確認であるが、この審議会では月額報酬について考えるということが良いか。本当は年額で考えたいが、期末手当は人事院勧告に準じて決まるため、全体の額を網羅できない。そのため、月額で見たときと年額で見たときの順位が変わってきてしまう。

委員) 昨年からの委員の指摘である。

委員) 例えば、年額の支給額が低いからといって月額を支給額を上げたとしても、本審議会の審議の対象外である期末手当が、人事院勧告で大きく上がってしまえば、順位が上位であることがいけないわ

けではないが、想定以上に順位が上位になってしまう。

委員) この審議会では月額判断しかできない。年額を意識しながら月額について決定してもらいたい。
事務局) 期末手当の役職加算は自治体によって様々である。期末手当も、月額が基準となるので、まずは月額について検討していただきたい。

委員) 政務活動費について、不交付の議員1名と記載があるが、それは政務活動費が要らないという議員のポリシーによるものか。

事務局) 体調を崩し、長期の休みに入っていた議員である。

委員) 政治的なポリシーではないということか。

事務局) そのとおりである。

委員) 政務活動費の執行状況についてだが、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まったこともあり、研修費や広告費が増えている傾向にあるのか。

事務局) 活動状況はコロナ前の水準に戻ってきていると推測される。

委員) 議員と接触する機会がなく、人それぞれであるとは思いますが、議員の仕事ぶりが分からないところもある。

委員) 人事院勧告では、ボーナスは4.4月から4.5月に引き上げるとあり、その内訳は期末手当に関しては1.225月、勤勉手当は1.025月となっている。高松市の特別職の期末手当の計算式のところに期末手当しか書かれていないが、勤勉手当がそれにプラスで入ってきているというわけではないのか。期末手当だけなのか。

事務局) 特別職の場合は勤勉手当という名目の手当はない。

委員) 四国の県庁所在地の情報は入ってきているのか。

事務局) 四国の県庁所在地の情報はまだ入ってきていない。中核市の中で把握している他市の状況は旭川市が市長、副市長は「据置き」、議長、副議長は「5,000円の引上げ」、八王子市及び豊橋市は全て「据置き」、吹田市は全て「引上げ」と結果が出ている。次回、四国の情報と併せて提示させていただく。

委員) []にいることが多く、議員になろうという思いがある方と接する機会があまりない。そのような人たちにとって今の報酬額が低いのか、全く魅力的な金額ではないのか、御存じの方がいれば教えてほしい。新聞報道などでは、小さな村や町の議員は、そこで働く職員よりも報酬が低いこともあると聞いたことがある。高松市について見たとき、議員報酬は魅力的なのか、そうでないのか。あるいは、どの程度上げれば、本当にやろうと思っている人がやれるのか、全く分からない。個人的には議員の報酬を見るとすごく貰っていると思うが、議員になろうとしている人、若しくは議員は今の報酬をどう思っているのか。そういった話を聞いたことがあれば教えてほしい。以前、議員はもともと、名誉職というものであって、報酬が生活の基盤となるお金という意識はなかったと聞いたが、今では議員も職業の一つという意識が一般的であると思う。それを考えると、この額が職務内容に見合うのか見合わないのかという観点もある。議員としての品位を保ちながら生活をしていくためには足りないものであるのか、声を聞きたいと思う。また、中核市の人口と議員報酬額との相関を調べてみると、中程度の相関があると分かった。財政力指数に関しては、それには劣り中程度弱の相関であった。

委員) おそらくだが、これから議員になろうという比較的若い年齢層の人は名誉職という発想より、生

活の収入を得るための選択肢の一つという意識の方が強いのではないか。どこかの企業で働くというのと同レベルで考えているのではないかと思う。私の業界の比較的若い人の発想であるが、どれだけの収入を得られるのかを重視するところもある。議員もそうなのではないかと推測できる。

委員) 月60万円という収入は、なかなかの金額なのか。年齢的にいうとどのくらいのものか。

委員) 年齢は一概には言えないが、なかなかの金額であると思う。ただ、魅力的であるかといわれると、十分であると考え人もいれば、より給料の高い民間企業もあるため、価値観の問題となってくる。個人的にはそこまで魅力的なものではないと思う。

委員) 知り合いの議員からは報酬額に対する不満は聞いたことはない。

委員) 今は、議員になろうとする人が少ない。自分から手を挙げる人はいない。

委員) それは男性でも、女性でもか。

委員) 男性でも、女性でも。女性が増えているのはありがたいことだと思うが、それだけ大変な仕事であると思う。土日もなく働くことを考えると、報酬額について、考える必要があると思う。

委員) 議員であれば、いろいろと言われることもある。

委員) それで諦めてしまう人もいる。

委員) 少しでも若い人が出るような雰囲気があれば、良いと思う。

委員) 他に意見がなければ、本日はこれで終了し、皆様それぞれ検討していただこうと思う。